
2005 年度
映画英語教育学会関西支部
第 3 回支部大会

日時：平成 17 年 9 月 18 日（日）

場所：京都女子大学

A 校舎 4 階 A 4 0 4 教室

大会プログラム

<上映会>

12:00-14:00 映画『デーヴ』上映会

14:00-14:15 支部総会

司会：藤本 幸治（京都外国語大学・ATEM 関西事務局長）

挨拶：藤枝 善之（京都外国語大学・ATEM 関西支部長）

<シンポジウム>

司会：横山 仁視（京都女子大学）

14:15-15:30 シンポジウム『映画“Dave”徹底活用法』

パネリスト：

松本 知子（同志社女子大学(非常勤)）「認知言語学の立場から」

Craig Smith（京都外国語大学）「Non-verbal communication の立場から」

熊谷 俊樹（京都外国語大学）「米国政治の立場から」

15:30-15:40 休憩

<研究発表>

司会：井村 誠（大阪工業大学）・奥村 真紀（同志社大学(非常勤)）

15:40-16:10 研究発表 1:

Todd Thorpe（京都外大西高等学校）内容：言語文化教育と映画

16:10-16:40 研究発表 2:

松葉 明（名古屋市立藤森中学校）内容：英語教育と映画

16:40-16:50 休憩

16:50-17:20 研究発表 3:

田中 美和子（大阪国際大学(非常勤)）内容：発音と映画

17:20-17:50 研究発表 4:

小山田 淳子（京都女子大学）内容：文学と映画

<懇親会>

18:15-20:15 懇親会

挨拶：倉田 誠（京都外国語大学・大会実行委員長）

研究発表概要

●Video Production in the Classroom to Support Content Based Language Learning.

トッド・ソーブ (京都外大西高等学校)

During their third year, students enrolled in the International and Cultural Studies Course at Kyoto Gaidai Nishi High School, take part in a three day Model United Nations event and address various problems in the world. After this event, my homeroom students studied a war and peace unit and they were given a choice of either making a news- paper or movie as a final project. Twenty-two of these students made a movie to raise awareness of the consequences of war and the atrocities played out by George W. Bush and the American government. The 20 minute docudrama movie was made with Apple's iMovie software and it concentrated on the Iraq war, landmines and depleted uranium. This presentation will include a viewing of the movie and an explanation of how the movie was made and the difficulties encountered.

●「中学校での映画の活用～学習意欲は感動から～」 松葉 明 (名古屋市立藤森中学校)

発表概要:

1. はじめに

発表者が今までに映画から学んだことを、独断と偏見(?)を含めて話しをします。

2. 中学校の授業の中で、発表者がどのように映画を使って進めているかを話します。

(1) 普通の授業の中で:

①雑談の中で一映画のタイトルの日米の違いなど

②ウォーム・アップ(最初の5分程度を活用して)一有名なシーン、学校の言語材料に関連づけて

③テスト後の1時間を利用して一テスト後の最初の授業は、なかなか授業に身が入らないので、単発にできる映画の活用法

(2) 選択授業を活用して

英語好き、映画好きな生徒たちが集まれば授業者のやりたい放題！一昨年は映画「タイタニック」を活用して、一年間を通して(約30時間)進めてきた内容を話します。

●「発音と映画」 田中 美和子 (大阪国際大学(非))

発表概要:

イギリス英語には「階級方言」があり、「教養ある社会階層」が用いる容認発音と、「低い社会階層」の用いる地方発音があると言われている。地方発音にはさまざまなバラエティがあり、それぞれに発音・文法・語彙の特徴を持っている。本発表では、映画を言語資料として利用しながら、ロンドン下町方言であるコックニー(Cockney)の発音に焦点を絞って、考察してみたい。そして、コックニーの発音特徴が、現代アメリカ英語の中にも見られることを指摘し、正確に英語の発音を記述するためにはどうするべきかについても、検討してみたい。

●「シェイクスピア映画における独白」 小山田 淳子（京都女子大学）

発表概要：

ケネス・ブラナーによる『ヘンリー五世』の大成功を皮切りに、数多くのシェイクスピア劇の映画化作品が、この10年間で一般大衆向けに制作された。こうしたシェイクスピア映画は、かつてのローレンス・オリヴィエらの映画化作品とはちがひ、シェイクスピア劇を広く大衆に親しませた点では大きな成果を見せたが、その一方でリアリズムの枠組みに収まりきれないシェイクスピア劇の言葉をどのように映像が描く物語世界に馴化させるかという、審美的問題は深く吟味されないままであった。この発表では、映像と台詞という問題がとりわけ先鋭な形で現れる「独白」という形式の台詞が頻出する『ハムレット』の映画化作品をとりあげ、シェイクスピア劇の言葉と映像の問題を再検討してみる。